六角牛山（山スキー）

2011 年 1 月 08 日
松田

１月０８日（快晴）

「ろっこうしやま」という読み方を知ったのは最近であるが、早池峰山、石上山と並ぶ遠野三山のひとつで、遠野盆地の東にそびえている。よく冷え込んだが快晴の朝、ゆっくり自宅を出て、凍った道に気を使いながら、遠野に向かう。遠野市内に入る頃、六角牛山が雄大な姿を見せる。標高は１３００m足らずであるが、なかなか立派で、三山のひとつに挙げられる理由が分かる。市内を抜けて左折し、六角牛神社の前に車を停める。仕度をしていると、お参りに来た地元の人が、「急なので、スキーでは無理だろう」とアドバイスしてくれたが、まあダメなら戻ります、ということで、フリートレックを付けて林道を進む。正月のものと思われる旧いトレースの跡があり、ラッセルは大したことはない。1 時間ほどで峠の登山口に着き、左折して登山道に入る。緩やかな道をすねくらいのラッセルで登っていくと、最後の方は少し急になるが、やがて肩に出る。まだ雪が締まっていないようで、あちこちに落とし穴があり、スキーでも結構消耗する。緩やかな稜線をしばらく辿ると山頂。

正面には早池峰山と薬師岳が間近に迫り、右には五葉山が大きな山容を見せる。遠野盆地は真っ白な平原になっていて、区界高原にはたくさんの塔（風車？）が見える。さすがに寒いので、早々に退散することにし、肩まではシールをつけたまま戻り、そこから樹林の中を滑る。藪が多いが、フリートレックなのでさほど苦にならず、そこそこパウダーを楽しんで、峠に戻る。登山届けに戻り時間を記載し、朝来た道を戻る。雪の林道を何となく充実した気持ちでスキーを進めていくと、人里が近づきやがて雪を被った家々が現れる。もう何十年もこんな事を繰り返しているのだが、こういう時間が好きなのである。車に戻って六角牛神社にお参りして、帰路に着く。

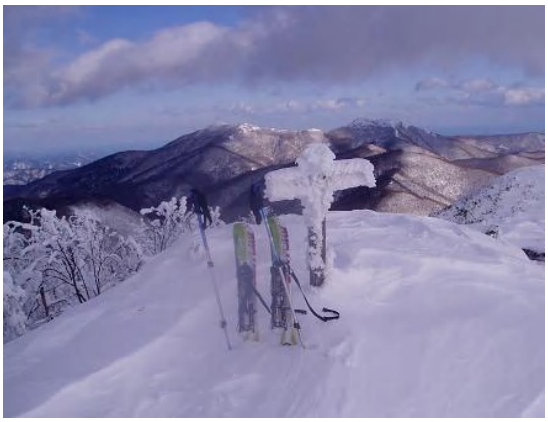
遠野市内からは、よく六角牛山が見えた。

コースタイム

六角牛神社（１０：２５）－　登山口（１１：２０）－山頂（１４：００）－六角牛神社（１５：５０）

地形図　　遠野（５万分の一）

峠の登山口



六角牛山頂（背景：薬師岳と早池峰山）

石上山（山スキー）

2011 年 1 月 09 日
松田

１月０９日（曇り時々雪）

　前日に引き続き、遠野三山の石上山に向かう。この山は、遠野盆地の西にそびえており、遠野物語では石神山と記述されているそうだ。昨日の六角牛もそうだが、民話の里：遠野の山らしい名前だと思う。盛岡のＯさんのホームページで、アプローチと登山ルートを確認する。いつものようにのんびり家を出発したので、登山口に着いたのは１０時半を回っていた。駐車場は除雪されていないので、近くの民家の入り口近くに停めさせてもらう。親切な家の人がわざわざ駐車スペースを作ってくれたが、私の車を見て、「湘南ナンバーか」と驚いていた。「時間遅いけど、大丈夫か？」と言うので、遅くなったら戻ります、と言っておいたが、確かに出るのが遅いなと思う。　登山口から雪の林道をしばらく辿ると、右側に「婆石」と呼ばれる大きな石が雪をかぶっていた。いかにも遠野らしい遺跡で、きっと何か言われがあるのだろう。石上神社の鳥居の手前で左に入り、１００ｍ程林道を行ってから、右の杉林に上がっていく冬ルートに入る。しっかり切り開かれた古い作業道のようで、とても歩きやすい。ラッセルはくるぶし程度でまったく問題ない。上部に行くに連れて尾根の傾斜は増してくるが、道はジグザグになっており全体的に傾斜は緩く、標識もしっかりしていて、分かりやすい。最後はしばらくの間密藪になると記録にあったが、雪が多いせいか、ほとんど藪もなく稜線に上がることができた。緩やかな稜線上に大きな岳樺が目立つ。５分ほど北に稜線を辿ると、標識のある狭い石上山の山頂に着いた。雪が降り続いており、何も見えないので、写真を撮って往路を戻り、少し行ってシールを外す。　雪質は上質の粉雪で、藪は多少あるが、思いっきりパウダーを楽しむことができた。石上神社に戻って、無事を登れたことに感謝し、車に戻る。昨日と違って凍っていない道を北上に向かい、途中の産直でりんごを購入。１箱１０００円と、とても格安。

北上山地は標高が低く、全体的にゆったりした山容の山が多い。和賀や夏油のように豪雪地帯でもないため、藪も出ており長いスキーは向かないが、フリートレックで駆け回ると楽しい山域なのではないかと思った。

コースタイム
　登山口（１１：００）ー　石上山頂（１３：３０）ー登山口（１４：１０）

地形図　　大迫（５万分の一）

登山口の石上神社

石上山頂